

映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2016」



会 期：2016年11月21日(月)～25日(金)
 会 場：国立新美術館／ユーロライブ／IMAGICA 第1 試写室
 主 催：(公社)映像文化製作者連盟
 後 援：文部科学省／経済産業省／東京都／映像産業振興機構／
 日本映画テレビ技術協会／日本アド・コンテンツ制作協会／
 日本ポストプロダクション協会／日本映画撮影監督協会／
 日本映画テレビ照明協会／高度技術社会推進協会／毎日新聞社／
 日本経済新聞社／朝日新聞社／読売新聞東京本社／映像新聞社／
 ユニ通信社(順不同)

対 象：一般
 公式サイト：<http://www.eibunren.or.jp/award2016/index.html>
 総来場者数：850人(国内入場者数：850人)

■開催内容

●映文連アワード2016 表彰式

11月21日午後1時30分から国立新美術館講堂に受賞者及び関係者180名が出席し表彰式を開催、文部科学省生涯学習政策局情報教育課長磯寿生氏、経済産業省商務情報政策局メディア・コンテンツ課長平井淳生氏にご登壇頂き、各々大臣賞等が授与された。

●映文連アワード2016 受賞作品上映会

24日(木)・25日(金)に渋谷・ユーロライブにおいて実施し、全受賞作品30本を「創造力は、永遠の航海である。」をテーマに5プログラムに分けて上映。トークセッションでは「若手監督、それぞれの表現手法」「地域発プロモーション映像の可能性」をテーマに受賞作品の監督・プロデューサーの方々に語り合ってもらった。

●International Corporate Film Showing 2016

ドイツのWorldMediaFestival、米国のU.S. International Film & Video Festival、Cannes Corporate Media & TV Awardsから招聘した企業映像18作品を、女性MCを入れて作品紹介し、上映した。メイン上映終了後、参加者の懇親会を開催、「THE ICONIC COCKTAIL, 'THE MARTINI」(Pieter-Rim de Kroon 新作35分)を招待上映した。

●映文連アワード10周年記念特別上映会

「この10年 10のまなざし～Ten years, ten views～」

映文連アワード10周年を機に我が国の10年間の産業構造や社会状況の変化を踏まえ、伝承文化や新しい作家たちの作品を一般の方々にも鑑賞して頂くために特別上映会を開催した。短編=TANPENという多様なジャンルならではの、多彩な視点やユニークな切り口を理解して頂くために、10のテーマを選び、受賞作品から33作品を抜粋して、11月22日(火)、23日(水)にユーロライブとIMAGICA 第1 試写室で上映した。

■2016年度の新規取り組みとその成果・特色など

●映文連アワード「i賞(個人賞)」について

10周年を記念し、新たに「i賞」を設けた。この賞は、映像コンテンツの新たな可能性を予感させるクリエイター＝個人を称える“個人賞”。“i賞”とは、イノベーション、イマジネーション、インDEPENDENTの「i」であり、映像コンテンツ制作者の新世代の才能輩出を意図している。斬新な切り口や表現方法によって、これまでの短編映像の概念を越えた新しい世界観を創り上げ、来るべき映像コンテンツの可能性を拓いたクリエイター＝個人に対し、その試みを称えて授与される。初の「i賞」は、『眠れない夜の月』脚本・監督・美術・アニメーションの八代健志氏に授与された。